



# わが家の防災メモ

## 〈避難場所のメモ〉

災害別にどこに避難すればいいのかをメモしておきましょう。

※まずは**指定緊急避難場所**に避難しましょう

	大雨・洪水のとき	土砂災害のとき	地震のとき	津波のとき
指定緊急避難場所				
指定避難所				

## 〈家族のメモ〉

家族のデータを記入しておきましょう。

家族の名前	生年月日	血液型	持病・常用薬 アレルギーなど	緊急連絡先	電話(勤務先/学校)
	M・T・S H・R 年 月 日	型 Rh(+・-)			
	M・T・S H・R 年 月 日	型 Rh(+・-)			
	M・T・S H・R 年 月 日	型 Rh(+・-)			
	M・T・S H・R 年 月 日	型 Rh(+・-)			
	M・T・S H・R 年 月 日	型 Rh(+・-)			



## 緊急連絡先 (市外局番 0162)

- 警察 **110番**  
天塩警察署豊富駐在所 **82-1703**  
天塩警察署兜沼駐在所 **84-2009**
- 火事・救急車 **119番**  
稚内地区消防事務組合豊富支署 **82-2005**

- 豊富町役場 **82-1001**
- 豊富町国民健康保険診療所 **82-1515**
- 北海道電力 稚内ネットワークセンター  
(停電、電柱・電線などの設備に関する問合せ) **0120-06-0135**
- 同報系デジタル防災行政無線の放送内容の確認について  
(その日の放送した内容を聞くことが可能) **82-1233**

## 災害用伝言ダイヤル 171

電話を利用する声の伝言板です。

171 にダイヤルするとガイダンスが流れます

録音の場合 **1** を押す 再生の場合 **2** を押す

「被災者」は自分の電話番号を、  
「被災者以外」は被災者の電話番号を  
市外局番からダイヤルしてください

**1** 伝言を録音 ※30秒以内 **1** 伝言を再生

**9** 終了 **8** もう1度聞く

**9** 別の伝言を聞く

(※固定電話や携帯電話・PHS・IP電話が利用可能です)

## 携帯電話各社の災害用伝言版

携帯電話などを利用して安否を登録・確認が可能です。地震や風水害などで被災地との連絡が困難になった場合に災害用伝言版が開通されます。

各社公式サイトトップ画面「災害用伝言版」を選択

伝言を残す(登録する)場合 **登録** を選択  
伝言を読む(確認する)場合 **確認** を選択

現在の状態を「無事です」  
などの選択肢から選び、  
任意で100文字以内の  
伝言を入力する

安否確認したい方の携帯  
電話の番号を入力して検  
索する

**登録** を選択

## 目次

- 大雨について知っておきたいこと ..... 1
- 大雨・強風に備えよう ..... 2
- 適切な避難行動を確認しよう ..... 3
- 水害時の情報の流れと避難の呼びかけ ..... 4
- その時とるべき行動  
(警戒レベルに応じた避難行動) ..... 5
- 土砂災害を知ろう ..... 6
- 地震の心得 ..... 7
- 津波の心得 ..... 9
- 暴風雪に備えよう ..... 11
- 下水道の役割 ..... 12
- 非常持出品・非常備蓄品を備えよう ..... 13
- わが家の防災メモ・緊急連絡先 ..... 15

# 防災 豊富町 ノート

2020年3月版



# 大雨について知っておきたいこと

## 大雨に対する心構え

### ① 大雨対策について知っておこう →P2参照

大雨に対しどのような対策をとれば良いかを知っておくと、いざというときに落ち着いて行動できます。大雨に関する情報は10日先まで入手することができるため、次の対策を図るよう心がけましょう。

- 風が強くなる前に家の外の点検をしましょう。
- 避難場所を確認しましょう。
- 停電に備え、携帯電話の充電、懐中電灯・携帯ラジオなどを用意しておきましょう。
- 大雨の影響で断水する可能性があります。断水に備え、食料・飲料水の用意や、浴槽に水をためるなどの対策を心がけましょう。

### ② 気象情報・避難情報の意味を理解しよう！ →P1,P4,P5参照

気象災害から身を守るため、危険度の高まりに応じて注意報・警報・特別警報が段階的に発表されます。また、災害の切迫度に応じて避難情報等が段階の警戒レベルで発表されます。これらの情報がどのような意味なのかを日頃から確認し、いざ発表されたときに速やかに対応できるように心がけましょう。

### ③ 避難する場合は「浸水が始まる前」！早めの避難を心がけよう！ →P3参照

浸水の中の避難は大変危険です。洪水の正しい避難行動は、浸水が始まる前に避難することです。洪水ハザードマップから自宅や職場などの浸水の状況を確認し、避難する場合は早めの避難を心がけましょう。

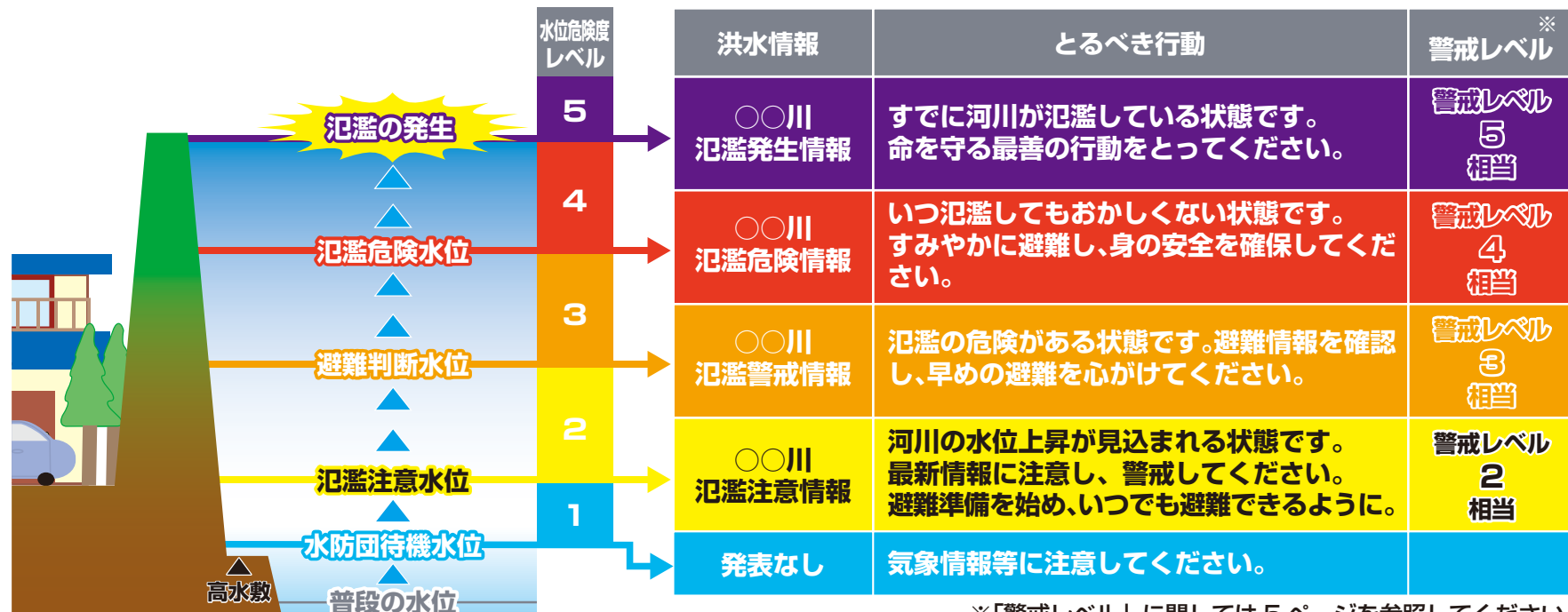
## 気象庁が発表する情報

災害の発生するおそれがあると予想したとき、警報や注意報を発表して災害に対する警戒や注意を呼びかけます。

数日前から… 雨が強く… 大雨が… 大雨が… 大雨が…	「気象庁では、大雨に関する(気象)情報を出して警戒を呼びかけています」			気象情報に注意	テレビ・ラジオ・インターネットで最新の防災気象情報等を確認し、災害への心構えを高めてください。
	土砂災害発生のおそれ	浸水発生のおそれ	洪水発生のおそれ	災害に備え早めの準備	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。
	大雨注意報	大雨注意報	洪水注意報	避難情報に注意	速やかに避難場所へ避難しましょう。避難場所までの移動がかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。
	大雨警報(土砂災害) 土砂災害警戒情報	大雨警報(浸水害) 記録的短時間大雨情報	洪水警報	直ちに身を守る行動をとる	すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとります。
大雨特別警報(土砂災害)	大雨特別警報(浸水害)				

## 洪水予報

国土交通省(稚内開発建設部)は、気象庁(稚内地方气象台)と共同し、あらかじめ指定した河川(天塩川)の洪水予報を発表します。洪水予報は、報道機関のほか、気象庁や国土交通省のホームページからも閲覧することができます。



# 大雨・強風に備えよう

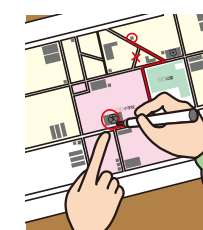
## 雨の強さと降り方

雨量や雨の強さを表す用語が、どの程度の雨の降り方を表しているのを知っておきましょう。

1時間雨量	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
降り方のイメージ	ザザーと降る雨	どしゃ降りの雨	バケツをひっくり返したような雨	滝のように降る雨	息苦しくなるような圧迫感がある雨
浸水害・洪水害の発生状況	この程度の雨でも長く続くと災害が発生するおそれがあるため注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれる	下水管から雨水があふれる	マンホールから水が噴出する	大規模な災害の発生するおそれが強く、嚴重な警戒が必要
土砂災害の発生状況		小規模のかけ崩れが始まる	かけ崩れ、地すべりが起きやすい	土石流が起こりやすい	

### ① 避難場所や避難経路を確認しましょう

日頃からハザードマップを見ておきましょう。

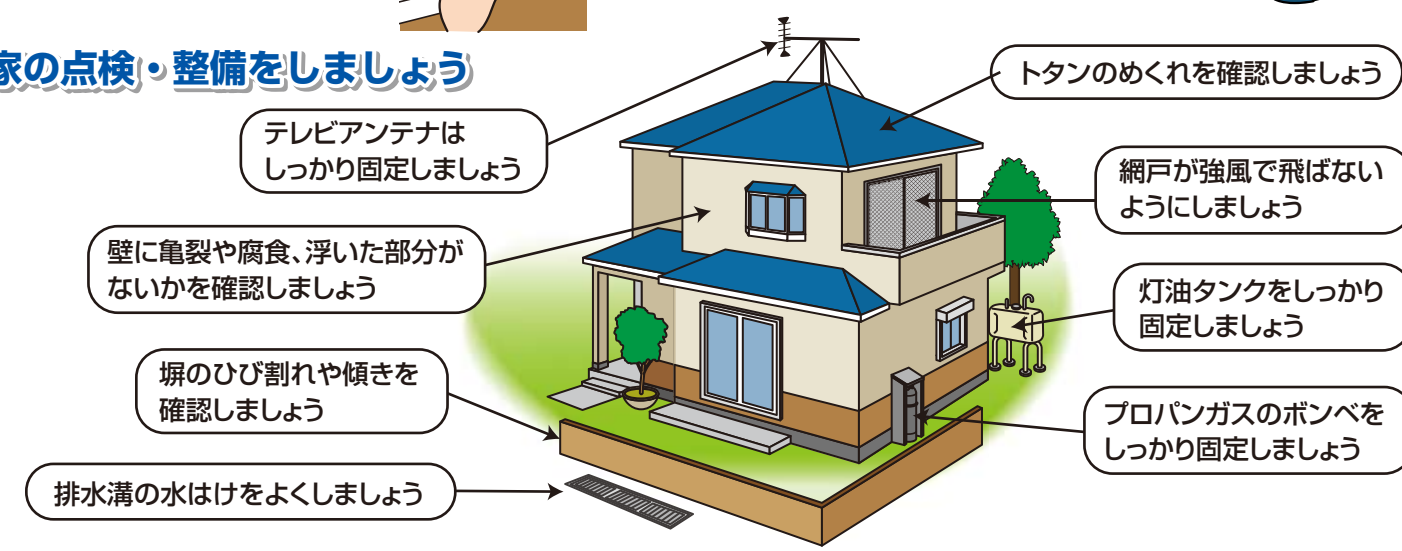


### ② 防災グッズを点検しましょう

非常持出品、非常備蓄品を定期的に確認しましょう。



### ③ 家の点検・整備をしましょう



## 危険が近づいてきたら…

- 気象情報を確認しましょう
- 強風時は窓ガラスにガムテープを貼りましょう
- 外出は控えましょう
- 植木などは室内に入れましょう
- 大雨のときは貴重品を2階に置きましょう

## 竜巻注意情報が発表されたら…

竜巻注意情報が発表されたときや、竜巻のきざしを発見したら身を守る行動をとります。

- 急に冷たい風が吹いてきた
- 真っ黒い雲が近づいてきた
- 雷の音が聞こえてきた

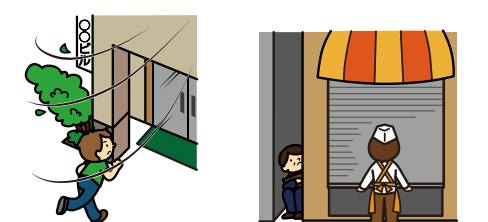
### 屋内では…

- 窓やカーテンを閉めて窓から離れる。大きなガラス窓の下や周囲は大変危険。
- 家の1階の窓のない部屋に移動する。
- 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。



### 屋外にいたら…

- 頑丈な建物の中へ避難する。
- 避難できないときは物陰に入って身を小さくする。
- シャッターが開いていたら閉める。
- 物置や車庫・プレハブ(仮設建築物)への避難は危険!



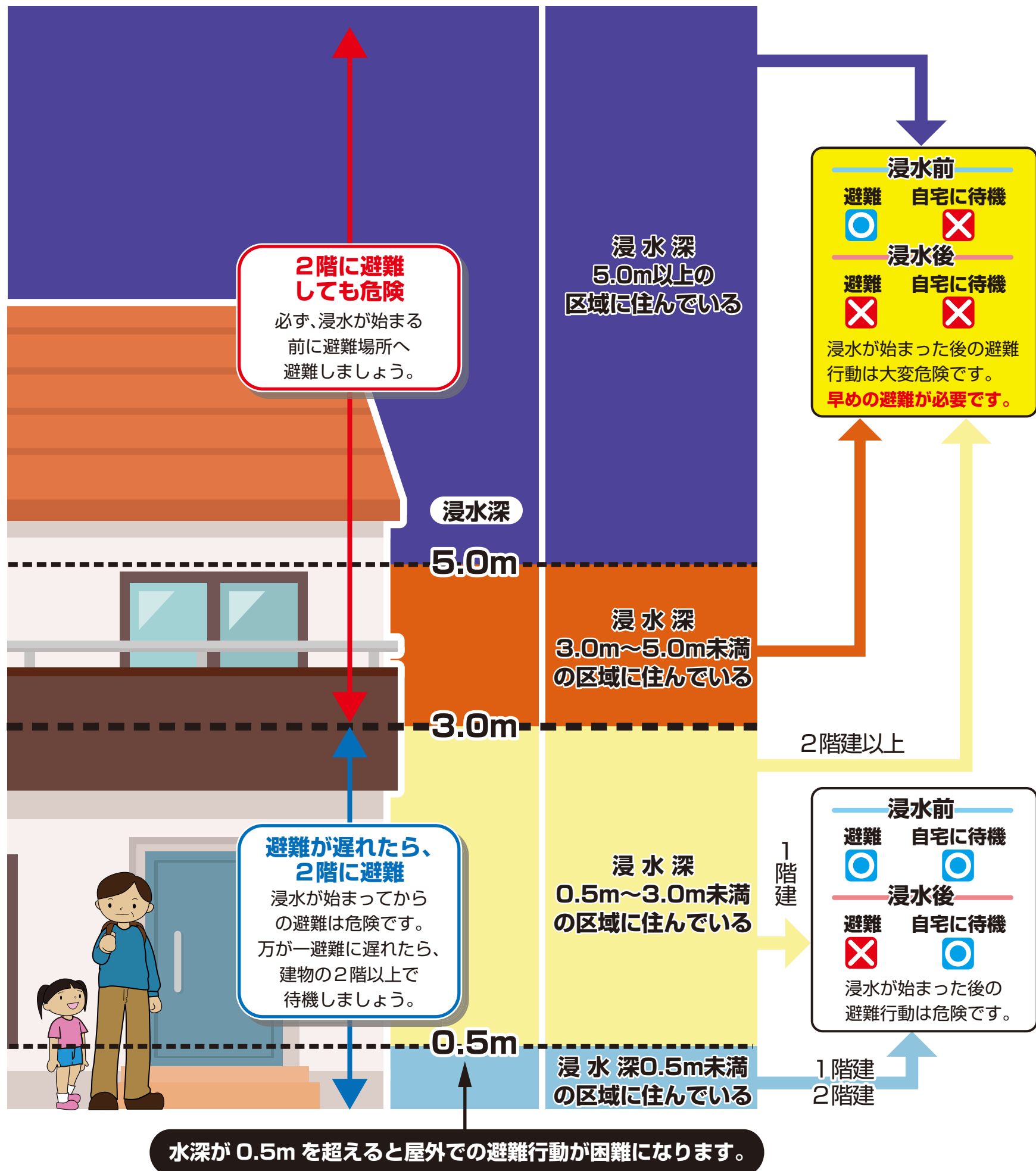


# 適切な避難行動を確認しよう

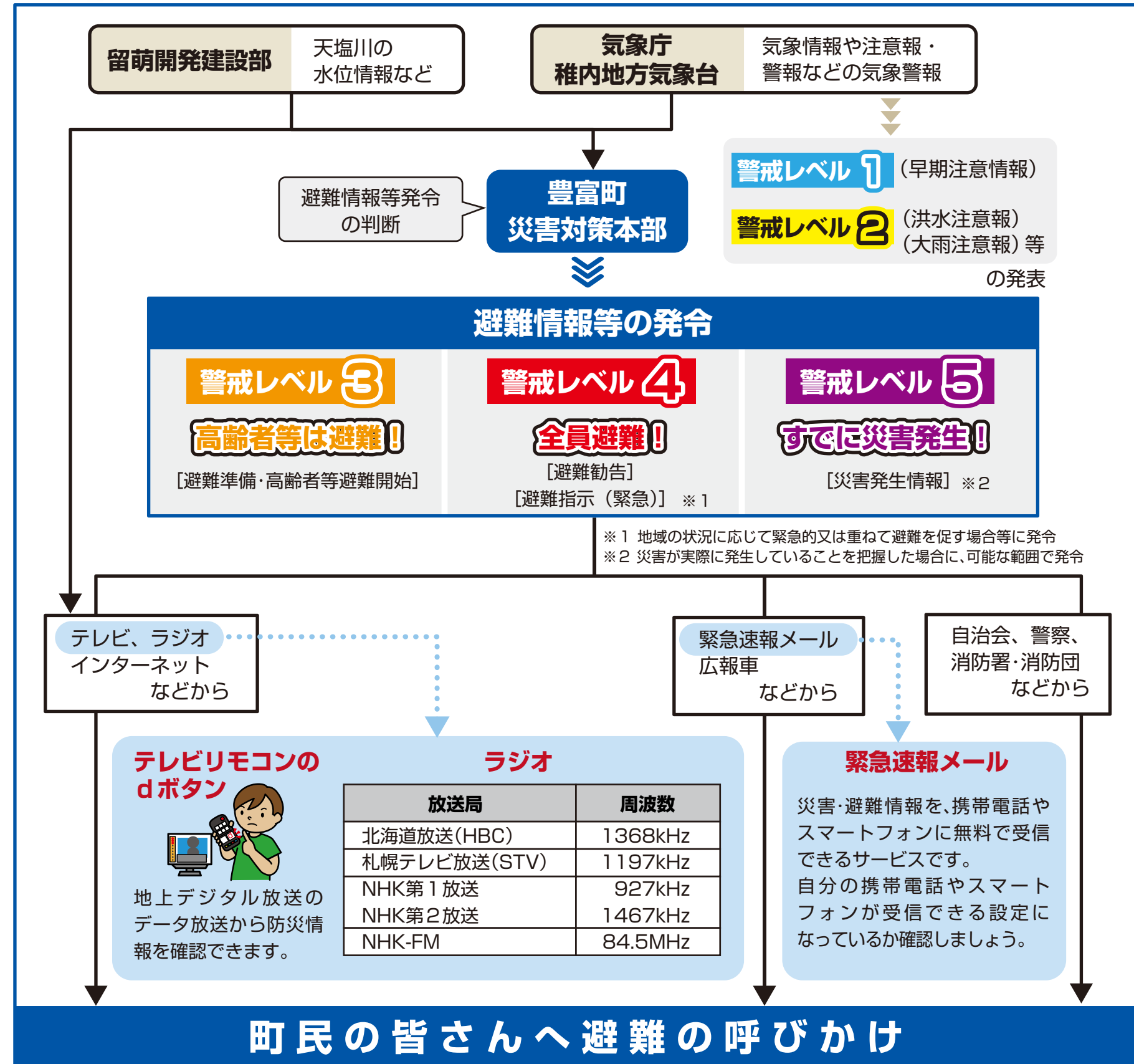
洪水(河川の氾濫)によって市街地や建物、畑が水で覆われることを浸水といい、その深さを浸水深といいます(道路や農地が水で覆われることを冠水ということもあります)。一般の建物では、浸水深が0.5m未満の場合は床下浸水、0.5m以上になると床上浸水する恐れがあり、3m以上では2階も浸水する恐れがあるため、2階への避難ができません。洪水の正しい避難行動は、「**浸水が始まる前に避難する**」ことですが、万が一の事態に備え、別冊の「豊富町防災ハザードマップ」で自宅が浸水するか、浸水深はどのくらいか、避難ルートは浸水するかなどを確認し、下のフローチャートからいざというときの避難行動について確認しておきましょう。

スタート

あなたのお住まいは、どの浸水深の区域の中にありますか？



# 水害時の情報の流れと避難の呼びかけ



## 大雨や洪水に関する防災情報

### レーダー・ナウキャスト(降水・雷・竜巻)

レーダー観測などをもとに、降水、雷、竜巻の予報を提供しています。

<https://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

### 指定河川洪水予報

河川の増水や氾濫などに対する水防活動の判断や住民の避難行動の参考となるよう、指定河川の水位または流量を示した洪水の予報を提供しています。

<https://www.jma.go.jp/jp/flood/>

### 降水短時間予報

局地的に短時間で降る雨の予報を30分おきで6時間先まで提供しています。

<https://www.jma.go.jp/jp/kaikotan/>

### 北海道土砂災害警戒情報

土砂災害による被害の防止・被害の軽減のための情報を発表しています。

<http://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/>

### 川の防災情報

リアルタイム雨量・水位の情報を提供しています。水防警報、洪水予報やダム放流も通知します。

<https://www.river.go.jp/>



# その時、とるべき行動 (警戒レベルに応じた避難行動)

警戒レベル	住民の皆さんのとるべき行動
警戒レベル5 が発令されたら…	<p><b>命を守る最善の行動を</b></p> <p>すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。</p> <p><b>最終的な危険回避行動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●未避難者の緊急避難</li> <li>●屋内安全確保 (垂直避難)</li> </ul> <p><b>避難完了</b></p>
警戒レベル4 が発令されたら…	<p><b>安全な場所へ避難</b></p> <p>速やかに避難し、身の安全を確保しましょう。避難場所までの移動がかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。</p> <p><b>避難開始</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●避難の準備 (要配慮者以外)</li> <li>●住民の自主避難の実施</li> <li>●「避難勧告」や「避難指示 (緊急)」の覚知</li> </ul> <p><b>要配慮者避難開始</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●外出の中止</li> <li>●家族の動向確認</li> <li>●避難の準備 (要配慮者)</li> <li>●氾濫に関する情報に注意</li> <li>●「避難準備情報・要配慮者避難開始」情報の覚知</li> </ul>
警戒レベル3 が発令されたら…	<p><b>避難に時間を要する人は避難</b></p> <p>避難に時間を要する人 (高齢者、障がいのある方、乳幼児など) とその支援者は、避難を開始しましょう。その他の人は、避難情報を確認し、避難の準備を整えましょう。早めの避難を心がけてください。</p> <p><b>避難準備情報・要配慮者避難開始</b></p>
警戒レベル2 が発表されたら…	<p><b>避難行動の確認</b></p> <p>最新情報に注意し、警戒してください。避難準備を始め、いつでも避難できるようにしてください。避難に備え、ハザードマップ等により、災害が想定されている区域や避難場所等を確認しましょう。</p>
警戒レベル1 が発表されたら…	<p><b>心構えを高める</b></p> <p>テレビ、ラジオ、インターネット、携帯メール等で大雨や河川の状態を確認し、災害への心構えを高めてください。</p> <p>【警戒レベル5】ではすでに災害が発生しています。また、必ず発令されるものではありません。</p> <p>【警戒レベル3】や【警戒レベル4】で、地域の皆さんで声を掛け合って、安全・確実に避難しましょう。</p>
普段から…	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水防訓練への参加</li> <li>・防災グッズの準備</li> <li>・災害・避難カードの確認</li> <li>・ハザードマップ等による避難所や避難ルートの確認</li> <li>・テレビ、ラジオ、インターネット等による気象警報等の確認</li> <li>・隣近所との相互協力関係の醸成</li> <li>・家族との連絡方法確認</li> <li>・自宅保全</li> </ul>



# 土砂災害を知ろう

## いろいろな土砂災害

土砂災害の多くは、雨が原因で起こります。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。



**がけ崩れ**  
雨や雪解け水、地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちる現象



**土石流**  
山や川の石や土砂が、大雨などにより、水と一緒に激しく流れ下る現象



**地すべり**  
雨や雪解け水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象

## こんな前ぶれ現象に注意!

次のような前ぶれ現象を察知した場合は、土砂災害が発生する可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場・消防署・警察署へ通報してください。



- 山鳴りがする
- 沢や井戸の水が濁る
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる
- 川の流れが濁り、流木が混ざり始める
- 小石がバラバラ落ちてくる
- がけから水が湧き出てくる
- 普段嗅いだことのない腐った土の臭いがする
- がけや斜面から水が噴き出す
- 地面にひび割れができる
- 斜面のひび割れ、変形がみられる

## 土砂災害から身を守るために

まわりに「土砂災害危険箇所」があるか確認しましょう

日頃から自分の住んでいる家のまわりや避難場所までの経路に砂災害危険箇所があるか、ハザードマップで確認しましょう。



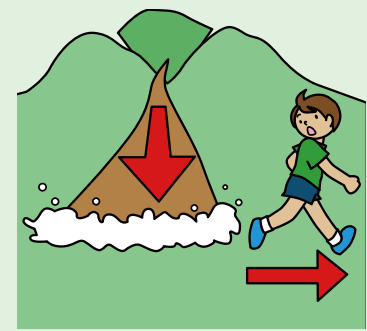
雨が降り出したら、「土砂災害警戒情報」に注意しましょう

雨が降り出し、土砂災害警戒情報が発表された場合は、避難の準備をし、町の避難勧告などに従い、速やかに避難しましょう。



## 避難するときの注意点

- 避難場所へ移動する立ち退き避難が基本です。
- 避難場所や安全な場所へ避難する際、他の土砂災害危険箇所の通過は避けましょう。
- 土石流に関しては、溪流に対して直角方向にできるだけ溪流から離れましょう。
- 屋外での移動に危険が伴う状況下では、立ち退き避難がかえって危険であるため、このような場合は、建物の2階などのより高い階にある山の反対側の部屋に待機しましょう。



## 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

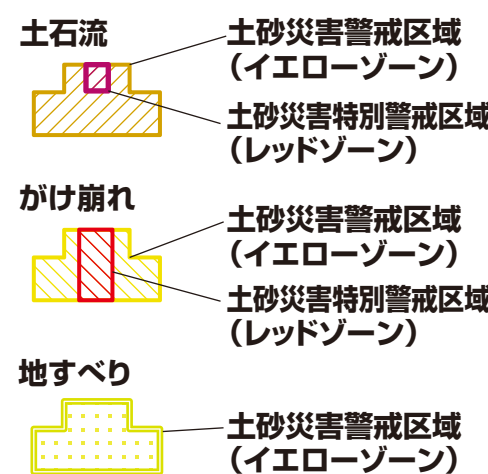
### 土砂災害警戒区域 (イエローゾーン) とは

土砂災害警戒区域とは、法律に基づき、北海道が土砂災害危険箇所について現地調査を行い、土砂災害が発生した場合に「住民の生命・身体に危害が生じるおそれがある」土地を指定した区域で、避難体制の整備や土地利用制限などの規制がかけられます。イエローゾーンと呼ばれることもあります。

### 土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン) とは

土砂災害特別警戒区域とは、警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に、建築物が損壊して住民の生命・身体に著しい危害が生じるおそれがある区域で、一定の土地開発が制限され、居室を有する建築物の構造が規制されます。土砂災害警戒区域の中でも特に危険な区域で、レッドゾーンと呼ばれることもあります。

### ハザードマップでの表記の仕方





# 地震の心得

## わが家の地震対策

### 家の周囲の安全対策

**屋根**  
不安定な屋根のアンテナや屋根は補強しておく

**ベランダ**  
植木鉢などの整理整頓をし、落ちる危険がある場所には何も置かない

**窓**  
飛散防止フィルムをはる

**ブロック塀・門柱**  
土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なため補強する  
ひび割れや鉄筋のさびも修理する

**プロパンガス**  
ボンベを鎖で固定しておく

### 家の中の安全対策

#### ① 家の中に逃げ場としての安全な空間を作る

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめておく。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。

#### ② 寝室、子供やお年寄りのいる部屋には家具を置かない

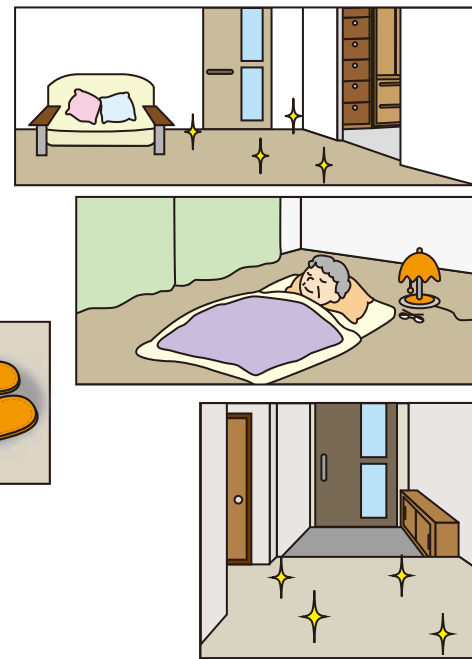
就寝中に地震に襲われると危険。子供やお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。

#### ③ 家の中でケガをしない対策を

食器棚等の転倒によって、ガラスが散乱する可能性があるため、リビングや寝室等にスリッパなどを用意しておく。

#### ④ 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

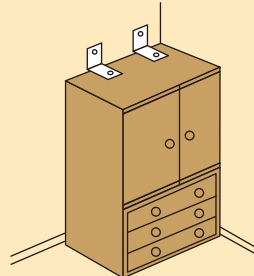
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに出入口をふさいでしまうことも。



### 家具の転落、落下を防ぐポイント

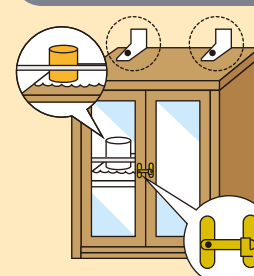
#### タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



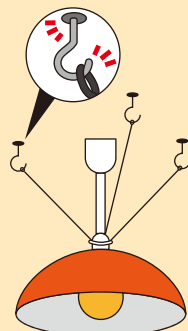
#### 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



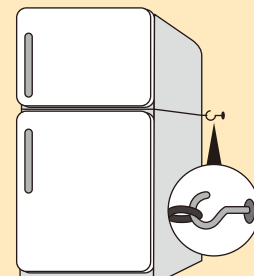
#### 照明

チェーンと金具を使って数力所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



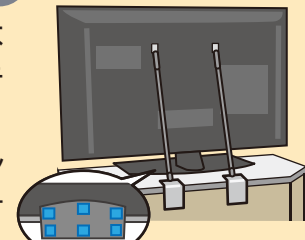
#### 冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金を巻いて、金具で壁に固定する。



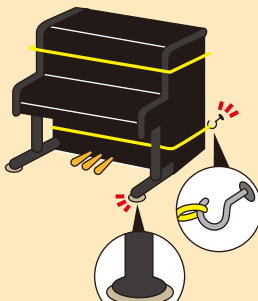
#### テレビ

転倒防止バンドなどでテレビ台とテレビを固定したり、粘着パッドをテレビの足に貼り付けて固定する。



#### ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する脚には、すべり止めをつける。



## 地震直後に気をつけること

### 地震発生 ～ 2分 グラッと来たらまず身の安全の確保

「地震だ!火を消せ!」といわれ続けてきましたが、現在、LPガスは震度5弱以上の揺れを感知すると自動的に火が消えるようになっています。大きな揺れの中、コンロの火を消そうとすると、高温の湯や油が飛び散って、やけどをする場合があります。大きな揺れの最中は「何もできない」ことがほとんどで、強い揺れを感じたら、まずは自分の身を守ることに専念しましょう。

### 2分～ 5分 揺れがおさまったら火の始末・出口の確保

揺れがおさまったら、火の始末を行いましょう。出火しても炎が大きく燃え上がるまでには2～3分の時間があるので、被害を拡大させないために、小さい火のうちに消し止めることが大事です。必ず消火器を備え、すぐに使用できる場所に置いておきましょう。消火器の使用方法は、日頃から確認しておきましょう。また余震に備え、ドアを開けるなど出口の確保を行いましょう。

### 5分～ 10分 わが家の安全確認・避難の準備

家族や隣近所の安全を確認しましょう。火が出ていたら大声で知らせ、協力して消火しましょう。ラジオなどで情報を収集し、余震で被害拡大の恐れがある場合はすぐに避難を開始しましょう。避難する場合には、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めてから避難しましょう。外出中の家族のために避難先や安否情報を書いたメモを残すことも大切です。

## 津波浸水想定区域内に自宅などがある場合

強い揺れや、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら、「**すぐに避難**」を心がけてください

### 揺れがおさまったら

テレビなどで情報を確認せず、電気のブレーカーを落としてすぐに避難を開始しましょう。避難しながら情報を確認しましょう。

## 火災が発生したら…

### ① 大声で知らせる

「火事だ!」と大声を出して、隣近所に助けを求めましょう。小さな火でも119番に通報しましょう。



### ② 初期消火を試みる

ポヤでおさまるのは、出火から3分以内が限度。それまでに様々な手段を用いて消火を試みましょう。



### ③ すばやく逃げる

天井に火が燃え移ったら初期消火は中断し、煙を吸い込まないよう低い姿勢で直ちに避難しましょう。



通報をするときは、冷静に、火災やけが・病人等の状況をできるだけくわしく伝えましょう!

火事? 救急?

→ 火事か救急の別をハッキリと伝えましょう。

場所をハッキリと!

→ 住所の他に、目標物なども伝えましょう。

建物の種類は?

→ 木造かビルか、また階数なども伝えましょう。

けが人などは?

→ 事故や病気・けがの様子をくわしく伝えましょう。



# 津波の心得

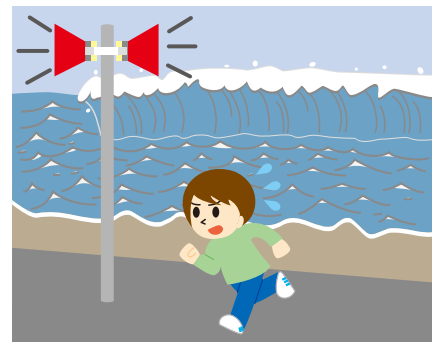
津波から身を守るためには、とにかく逃げるしかありません。迅速な対応で早めに避難すれば被害を軽減できます。また、一度津波が引いたとしても油断は禁物です。津波は2回、3回と来襲し、第一波より大きい場合もあります。注意報や警報が解除されるまでは、海辺や河川には決して近づかないようにしましょう。

## ▶ 小さな揺れでもまず避難

地震の揺れは小さくても大津波の危険性があります。明治三陸地震津波(明治29年)では、震度3程度だったにもかかわらず、予想に反して大津波が発生しました。

## ▶ 家で情報を待たずに、すぐ避難する

家で情報収集するのではなく、避難しながら携帯ラジオなどで情報を収集するか、安全なところに避難してから情報を収集しましょう。



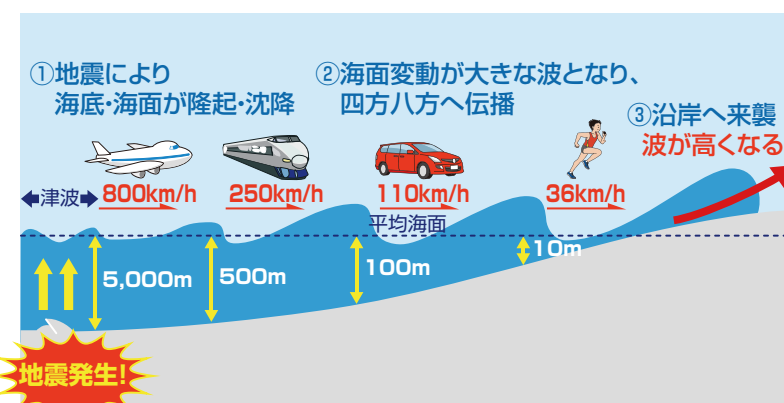
## ▶ 津波の破壊力は凄まじい!

浸水深が2mになり、そのときの流速が毎秒4mを超えると、木造住宅ごと流されるおそれがあります。



## ▶ 津波の速さはもの凄い!

津波の速さは、沖合ではジェット機なみの速さで伝わります。水深が浅くなるにつれて速度は弱まりますが、それでも深さ10mの海岸近くでは、短距離走選手なみの速さで陸上に押し寄せるので、普通の人々が走って逃げ切れるものではありません。津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。実際に津波が見えなくても、迅速に避難することが大事です。



## ▶ 津波の第1波が一番大きいわけではない

津波は2波、3波と何度も繰り返します。必ずしも第1波が一番大きい場合とは限りません。津波警報が解除されるまで、海岸に近づくことはせず、高台の避難所にとどまることが大事です。

## ▶ 津波が50cmくらいなら低いから大丈夫と思っていたら大変なことになる

50cmの津波でも、秒速およそ2mで海底の砂や砂利を巻き上げてやってくると、身体には0.3トンの力が働きます。そうなる前に立って倒れずに転倒し、津波と一緒に流されてしまいます。

## ▶ 津波は引き波で始まるとは言えない

津波は引き波で始まる場合もあれば、押し波で始まる場合もあります。先に引き波が来た時は、潮が引いて、普段見えない海底が現れたりしますが、それを津波と知らず近寄ると、次に来る押し波にさらわれる危険があります。津波警報が発表されたら迅速に避難することが大事です。



## ▶ 迅速な避難をするために

### ▶ 避難情報に従いましょう

避難に関する情報を無視するのは、きわめて危険な行為です。被害が発生しない場合もあるわけで、このときは被害がなくて良かったと思うようにしなければなりません。



### ▶ 避難場所・避難経路を確認しておきましょう

日頃から、どの経路でどこへ避難するか、家族で確認しておきましょう。また、津波到達時間が5分程度で来襲する場合もあるので、ハザードマップなどで、いち早く避難できる高台を確認しておきましょう。

### ▶ ハザードマップを活用し、身近な危険を確認しておきましょう

日頃から、身近の危険を確認し、家族や地域で避難方法などについて話し合っておきましょう。身近に避難のお手伝いが必要な人が居ないかを確認しておきましょう。

### ▶ その時、その時にあった避難行動がとれるように備えておきましょう

津波警報が発表されたら、いつでもハザードマップに示された区域が浸水するわけではありません。その時その時にあった避難が行えるように備えておきましょう。

## ▶ どんな時でも情報をつかめるようにしておきましょう

役場が被災する可能性もあるため避難情報が発令される前に津波が襲来する場合があります。どんな状況でも情報を掴めるように携帯ラジオ等を常備しておきましょう。



## 東日本大震災の津波避難行動の教訓

- 安全に避難するには**早期避難**が重要
- 避難の呼びかけ**や**率先避難**が避難をうながす要因になる
- 迅速に避難した人は、**津波襲来に対する意識が高い**
- 「家族を探す」「忘れ物をとりに自宅へ戻る」などの行動が**避難を妨げる**
- 車で避難した人の1/3が**渋滞に巻き込まれ**被害にあった





# 暴風雪に備えよう

暴風雪に関する気象警報などが発表されたとき、**外出しないこと**が身の安全を守るための最善の対策です。暴風雪から身を守るための対策を日頃から理解し、いざというときに備えてください。

## 家の中で安全に過ごすために

**一酸化炭素中毒** 雪でFF式暖房機の給排気口がふさがれると、一酸化炭素が家中で充満して命に危険が及ぶ可能性があります。給排気口が雪でふさがれていないか定期的に確認してください。

**陸の孤島** 道路の通行止めによって交通網が寸断され、食品や日常生活用品などの物流がストップする可能性があります。食料や日頃から服用している薬など、万が一のために備えておきましょう。

**停電** 暴風雪によって停電が発生する可能性があります。懐中電灯、携帯ラジオ、電気を使わない暖房器具なども準備しておきましょう(P14の「停電に備えよう」も参考にしてください)。暖房器具やカセットコンロは換気を良くして使用しましょう。また、30分に一度はしっかり換気しましょう。

## やむを得ず車で外出するときは

天気の急変など車が立ち往生することを想定して以下の物品を車に備えておきましょう。また、十分に燃料があることを確認しましょう。

●毛布 	●カイロ 	●手袋・帽子 	●防寒着 	●寝袋 	●長靴 
●スコップ スノーブラシ 	●スノーヘルパー 	●けん引ロープ 	●ブースターケーブル 	●食料・飲料水 	●携帯トイレ 

## もしも吹雪で車が動けなくなったときは！

**車の外に出て大丈夫な状況ですか？**  
暴風雪によって発生するホワイトアウトは、方向感覚を失い、道に迷う危険性があります。おさまるまでは車内で待ちましょう。

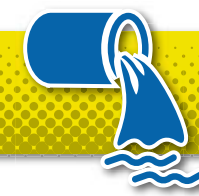
**情報を入手しましょう**  
ラジオや携帯電話で気象情報や道路情報を確認しましょう。

**近くに施設はありますか？**  
近くにコンビニや道の駅がある場合には、速やかに避難し、天気の回復を待ちましょう。

**原則エンジンは停止しましょう**  
車が雪に埋もれたときにエンジンをかけ続けると、一酸化炭素が充満して命に危険が及びます。エンジンは原則停止し、防寒着や毛布等で体温の低下を防ぎ、救助を待ちましょう。

**マフラーの状況に注意しましょう**  
防寒などでやむを得ずエンジンをかけるときは、マフラーが埋まらないよう、こまめにマフラーの周りを除雪しましょう。

**救助を依頼しましょう**  
JAFなどのロードサービスや近くの店・人家などに救助を求めましょう。避難できる場所や救助を求められる人家が近くに無い場合は、消防(119)や警察(110)に連絡して、車の中で救助に備えてください。また、ハザードランプの点灯や停止表示板を置き、車が目立つようにしておきましょう。



# 下水道の役割

下水道は、生活排水だけでなく、「安全」、「環境」、「暮らし・活力」に関わる多様な役割を担っています。

## これからの下水道の方向性

### 下水道の現状と課題

#### 集中豪雨による生命・財産を脅かす災害の発生

平成12年・平成26年の大雨災害から実態把握し、令和元年度に雨水整備を実施し完了

#### 地震に対する施設の脆弱性

下水道施設の耐震化については、計画の段階で地盤調査し問題ない

#### 下水道方式による雨天時の水質汚濁への影響

豊富町では、分流式下水道方式を100%採用しており、汚水は浄化センターを経由し河川へ、雨水は直接河川へ排水し、水質環境を保持しています

#### ストックの蓄積と老朽化

下水道管路部分及び、マンホール周りの陥没や凍上については、通年の維持管理により点検・修理します。施設更新については、下水道ストックマネジメント計画により、20年の中長期スパンでの策定と5年ごとの見直しを行いながら、経過年数と優先度を勘案したマトリクス診断により、財政状況を勘案しながら平準化し更新化に努めます

#### 中小市町村の厳しい経営状況

人口比率では財政基盤が弱いなかでも、物価の高騰、施設更新費用の増大と諸問題を抱えているため「世代間における受益者公平な負担」を維持するためにも、段階的・計画的な料金改定を行っていき、持続可能な下水道事業を経営していきます

#### 汚水処理施設の未普及

下水道整備率は約9割であり、市街地内で下水道を使用可能

### 下水道の取り巻く状況変化

#### 地域温暖化により激化する集中豪雨

#### 大規模地震発生危険性の顕在化

#### 良好な水環境への回復

#### 地球温暖化が深刻化する水不足

#### 資源・エネルギー循環型社会への要請

#### 老朽化施設の急増

#### 本格的な人口減少社会の到来

#### 中小市町村の財政状況の悪化

#### 地域活性化への希求

### 下水道の方向性

#### 安全で安心な暮らしの実現

- 豪雨による浸水被害の最小化
- 地震発生時の機能保持

#### 良好な環境の想像

- 高度処理による水質改善
- 水質リスクの低減(分流式下水道の改善)
- 資源・エネルギー循環の形成
- 健全な水循環系の構築

#### 持続性の確保

- 適正なストック管理
- 経営基盤の強化

#### 快適で活力ある暮らしの実現

- 未普及地域の解消
- 地域の活性化

整備済区域

未整備済区域



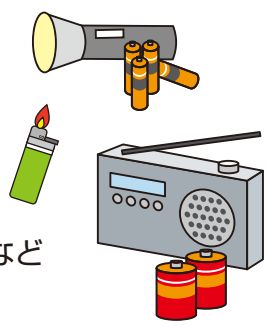
# 非常持出品・非常備蓄品を備えよう

## 非常持出品

できるだけ身軽に避難できるようにするため、非常持出品は避難に必要な物品や貴重品に限りましょう。非常持出品は、リュックサック等に入れて避難するときの通り道、玄関、寝室等に置いておきましょう。

### ラジオ 照明器具

携帯ラジオ、懐中電灯、予備の電池、ライター・マッチなど



### 非常用食品

缶詰・カンパンなど火を通さずに食べられるもの、水など



### 貴重品

現金（小銭も準備）、通帳、免許証、健康保険証のコピー、携帯電話など



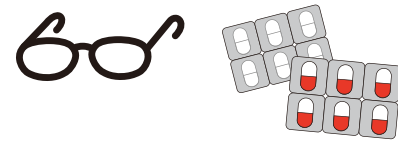
### 衣類、救急・衛生用品

下着、上着、タオル、軍手、雨具、ばんそうこう、ウェットティッシュなど



### 各自必要なもの

メガネ、コンタクトレンズ、補聴器、入れ歯、普段飲んでいる薬、お薬手帳のコピーなど



### 移動に必要なもの

ハザードマップ、リュックサック、運動靴など



## 非常備蓄品

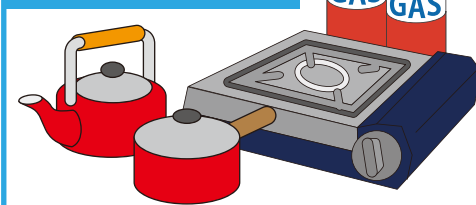
災害発生直後、飲料水や食料等は、入手することが困難な状況が想定されます。またライフラインが途絶えた場合を想定し、数日間（最低3日間）を生活できるように各家庭で備えておきましょう。

### 飲料水 食料品



カップ麺・レトルトご飯・缶詰・レトルト食品・冷凍食品など  
水は1人1日3ℓが目安

### カセットコンロ ガスボンベ 固形燃料 調理器具



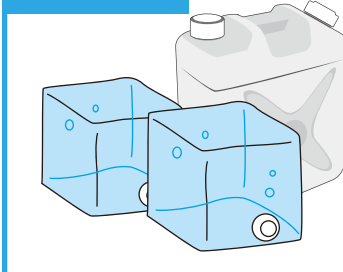
調理器具は、やかん、なべ、おたまなど

### 洗面用具



水がなくても洗える  
ドライシャンプーなども  
あるとよい

### 生活用水



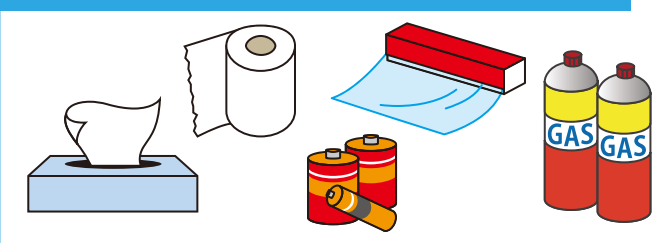
断水になった時のために、風呂や洗濯機に貯水しておくのもよい

### 寒さ・暑さ対策



身体を温める：ポータブルストーブ（電池式・ガスボンベ式）、使い捨てカイロ、サバイバルシート、防寒着、手袋、帽子、毛布など  
身体を冷やす：冷却シート・瞬間冷却材など

### 長期保存できる日用品や生活必需品



ティッシュペーパー、トイレトペーパー、ラップ、予備電池、予備ガスボンベなど、災害時に入手困難になる可能性があるため、長期保存できるものは多めに備えておく

## ！ 備えるときの注意点

●備蓄した食品の  
うっかり賞味期限切れを防ぐために…

### ローリングストック法 のすすめ

保存用の食品を備蓄しておくことは大切なことですが、いつの間にか賞味期限が切れていて破棄したり、賞味期限が迫ってあわてて保存食を食べなければいけないということに陥ったりします。そこで、**日常の中に食料備蓄を取り込むローリングストック法**という考え方があります。ローリングストック法は、日常的に食材・加工品を少し多めに購入し、賞味期限が近いものから消費します。そして、消費した分だけ買い足すことで、常に一定量の備蓄をしておくという方法です。

この方法のメリットは、備蓄量を一定に保ちながら消費と購入を繰り返すので、備蓄品の鮮度が保たれ、いざという時でも日常生活に近い食生活を送ることができることです。

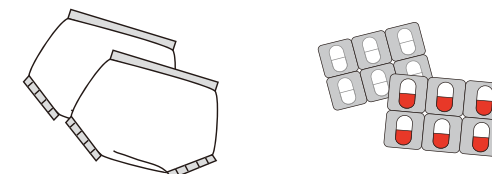
食品の備蓄の目安は、最低でも家族人数分×3日分です。飲料水の備蓄も同様で、定期的に料理などに使うことで循環させていきます。



## ●家族構成に合わせて準備しましょう

### 高齢者や身体の不自由な方がいる家庭

介護・看護用品、紙おむつ、服用薬など身体状況に合わせて準備しましょう。



### 赤ちゃんがいる家庭

粉ミルク、ほ乳びん、おむつやミネラルウォーターなど。お子さんの状況によっては離乳食やスプーンも準備。



## 💡 停電に備えましょう

### 夜間、周りが見えない！

懐中電灯（LEDライト）、ランタンなどを必ず**乾電池と一緒に**備えましょう。ろうそくは火災を招くおそれがあるため使用は控えましょう。

### 家電が使えない！

家電製品の使えない状況を想定して調理手段を備えましょう。（P13「非常備蓄品」参照。）  
また、テレビやパソコンが使えず情報収集ができなくなるため**電池で動くラジオ**を備えましょう。

### 断水した！

停電による給水ポンプの停止などによる断水に備えましょう。（**飲料水の備蓄**、常にお風呂に水をはっておく、給水された水を入れる**ポリタンク**や、水を使わない**簡易使い捨てトイレ**を備えておく）

### 冷暖房器具が使えない！

冷暖房器具が使えない状態でも、**暖（涼）をとる手段**を備えましょう。（P13「非常備蓄品」参照）

### 物が買えない！売っていない！

停電が起きてからでは、店に人が殺到し、商品が不足するため欲しいものが買えません。また停電が復旧しても物流が途絶えているため、食料品や日用品がしばらく買えない可能性も高いです。災害時に役立つものや普段から必要不可欠なものを**事前に多めに備えておく**ことは非常に重要です。また、**ガソリンも普段から残量が1/3ほどになったら給油**するようにしておく安心です。

★ 停電復旧時の火災を防ぐため、ブレーカーの電源を落とし、復旧後に電源を入れるようにしましょう。